あおもり紀行

AOMORI TOURISM GUIDEBOOK

行ってよかった、
冬の青森、
春の青森



青森県観光ガイドブック
2027冬・春

JR東日本
JR北海道
Amazing AOMORI

行ってよかった、
冬の青森、春の青森

雪が降り積もった冬しか見ることができない美しい景色、
花々が咲き、緑が映える春の青森。そしてその時期だけの美食に美酒。
一度訪れたらきっとあなたも「行ってよかった」と
言いたくなるはずです。

●青森県立美術館



巨大な『あおもり犬』は青森に訪れたらぜひ見てほしい！

●龍飛崎



津軽半島の最北端は「北国に来た」達成感を感じられます

●八甲田山



一生に一度は！と思って訪れたスノーモンスターは迫力満点！

●海鮮丼



青森と言えばマグロ、ヒラメ、ホタテ！ いろんな場所で海鮮丼を食べました

●りんご



品種によって味も食感もこんなに違うなんて驚きでした。さすが日本一の産地



●黄金崎不老ふ死温泉



海と一体化した露天風呂に浸かる贅沢！

●高山稲荷神社

朱色の鳥居に雪がかぶった景色は忘れられません

青森県へのアクセス

飛行機、新幹線、県内の交通機関も青森県のアクセス情報をチェック！

旅のプランを立てる際には、各種交通機関の運行状況を確認して計画的に。右の二次元コードでは青森県へのアクセスと、県内の交通機関をわかりやすくご紹介！

アクセス情報はこちら！

各主要都市から青森県への所要時間

札幌：飛行機で約45分
函館：新幹線で約1時間15分
仙台：新幹線で約1時間30分
東京：飛行機で約1時間20分、新幹線で約3時間
名古屋：飛行機で約1時間20分
大阪：飛行機で約1時間25分

●横浜町の菜の花



春の青森は気候も良くて、菜の花のお祭りも楽しめました

●弘前公園の桜



青森出身の友人に勧められて行ったけど、まさに日本一の桜でした。花筏の風景は唯一無二

●正子のチューリップ園



こんなに色とりどりのチューリップが一度に見られる景色は、記憶に残る旅の思い出になります

●アップルパイ



お店によっていろんなアップルパイがあって食べ比べは青森旅の醍醐味

●十和田市現代美術館



リアルさと大きさに圧倒される、ロン・ミュエクのスタンディング・ウーマンは必見！

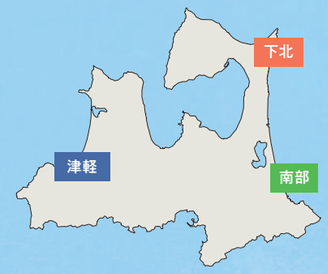
ロン・ミュエク《スタンディング・ウーマン》
2007年撮影：太田拓実
Courtesy Anthony d'Offay, London

この季節しか体験できない青森県の魅力

アンケートを取って青森県の「行ってよかった」を集めました（WEBサイト「オズモール」で2026年8月20日から31日まで実施）。約700名のリアルな声から冬・春それぞれの青森県の魅力を抽出。今だけ、ここだけの景色、食、体験を1冊に集約。左の地図のまわりにも、その声を少しだけご紹介しています。

3つのモデルコースを紹介！

青森県の冬・春の旅のご参考に、エリアごとのおすすめスポットをご案内。旅の計画を立てる際に、お気に入りを組み合わせて自分だけのコースを作って、青森県を満喫してください。



青森県の「行ってよかった！」3選はこちら

アンケートから紐解いた人気スポット

冬 -winter-

- 奥入瀬渓流
- 酸ヶ湯温泉
- 弘前公園

春 -spring-

- 弘前公園
- 奥入瀬渓流
- 十和田湖

今回のアンケートで特に「行ってよかった」の声が多かったスポットはこちら。花や緑、川に山が織りなす自然、秘湯と言われる温泉と、多くの人が青森県に癒しを求めているのかも。

Illustration：水沢そら（P02～03）

あおもり紀行2027 冬・春

●「あおもり紀行」の掲載情報がデジタルMAPに！

今回の「あおもり紀行」に掲載されているスポットは、おでかけ・観光スポットをMAPで一覧できるサービス「SASSY」に掲載中。右の二次元コードからまとめMAPにアクセス！

必ずお読みください（注意事項）

※各施設、イベント等の開催日、定休日や営業時間、料金、内容の詳細等については、それぞれの連絡先に直接お問い合わせください
※当ガイドブックに掲載されている情報は2026年11月～2027年4月のものです（2026年11月1日現在）。商品内容、料金ほか各種データが変更となる場合や、時期による変動、臨時休業等で利用できない場合があります。予めご利用の際にご確認ください　※掲載写真はすべてイメージです。実物と異なる場合があります　※天候・気象条件等により記事・写真のような景色が見られない場合があります　※料理等は内容が変わる可能性があります　※掲載されている地図の位置や縮尺、所要時間等はおおよその目安となるものです
※掲載の各観光施設・店舗等の休業日・営業時間及びイベントの開催日時等は変更になる場合があります。予め出発前にご確認ください　※実際の営業終了時間とは別に、最終入館時刻、ラストオーダーの時刻が定められている場合があります　※掲載の電話番号は、各施設のお問い合わせ用のため、個別の施設の番号と異なる場合があります。カーナビ等での位置検索で実際とは異なる場所を示す場合があります　※掲載の表示金額はすべて税込です。変更になる場合がありますので、掲載施設へご確認ください　※当ガイドブックに掲載された内容により生じたトラブルや損害等については、補償いたしかねますので、予めご了承願います

●青森県グッズをプレゼント！
アンケートにご協力ください

このたびは「あおもり紀行」を手に取っていただき、ありがとうございます。お読みになった感想をぜひ教えてください。ご回答いただいた中から抽選で10名様にてぬぐい、シール、バスボム、ドリップバッグの詰め合わせをプレゼントいたします。



感想はこちらから！

応募期間：2026年11月1日～2026年12月31日

※当選の発表は当選者の方への連絡をもって代えさせていただきます。当選された方へは、2027年1月29日までに、メールにてご連絡いたします。その際、プレゼントの詳細をお伝えするとともに、発送に必要な個人情報をお伺いいたします。　※個人情報はプレゼントの発送にのみ使用いたします



函館市出身で青森県にもゆかりがあるイラストレーター・水沢そらさんが描いた表紙には、東通村にあって本州最北東端の岬・尻屋崎に放牧されている寒立馬とりんごを持った女の子。真っ白に染まった草原と、はらはらと降る雪の美しさは青森県の冬ならではの風景です。

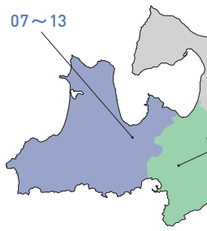
※寒立馬を見学する際は「近づかない」、「触らない」、「えさを与えない」を守り、警備員の指示に従い、安全に留意してください。

表紙イラスト：水沢そら
発行：（公社）青森県観光国際交流機構

十和田・青森
絶景と食の2泊3日の旅



Day 01
十和田市



【1日目】JR東北新幹線七戸十和田駅で下車。バスで十和田市へ。市街散策後、十和田湖周辺で宿泊
【2日目】バスで青森市方面へ。八甲田ロープウェーでスノーモンスターを見る【3日目】青森市街を観光

01

冬の奥入瀬は芸術的な美しさ

冬の奥入瀬渓流をネイチャーガイドと巡る体験型ツアー。特別保護区にツアーバスで入り、氷瀑や雪景色を照らす専用照明を搭載した車両が先導。渓流の成り立ちや動植物の解説を聞きながら、冬しか見ることができない絶景を楽しもう。

十和田市
冬の奥入瀬ナイトツアー
ふゆのおいらせナイトツアー
☎ 0176-24-3006（十和田奥入瀬観光機構）／ JR東北新幹線八戸駅よりバスで約95分（ツアーHPを要確認）



02

本格薪サウナと十和田湖の水で整う

十和田八幡平国立公園内、十和田湖畔の宇樽部キャンプ場にある予約制サウナ。ロシア製バレルサウナと薪ストーブを備え、温まった後は十和田湖を水風呂代わりに。森の中の外気浴で極上の“整う”体験を。

十和田市
十和田サウナ とわだサウナ
Instagram：@towadasauna／JR東北新幹線八戸駅よりバスで約125分（冬季の運行状況を要確認）



03

十和田市
奥入瀬ビール ブルワリー アンド レストラン
おいらせビール ブルワリー アンド レストラン
☎ 0176-27-1317／JR東北新幹線八戸駅よりバスで約60分

渓流の恵みで造るビールで乾杯

チェコの醸造技術を学んだブルワーが、奥入瀬の自然の恵みである八甲田の伏流水を使って造る奥入瀬ビール。こちらの直営レストランでは、県産食材を使った料理が楽しめ、特に店内で焼き上げるピザがおすすめ。



04

牛バラ肉と玉ねぎの十和田ご当地グルメ代表

牛バラ肉と玉ねぎに甘辛いタレを絡めて鉄板で香ばしく焼き上げるソウルフード。濃いめの味付けはご飯との相性抜群で、一度食べたら忘れられない味。

十和田市
十和田バラ焼き とわだバラやき
☎ 0176-25-7758（十和田バラ焼きゼミナール／企業組合ラビアンローズ内）／十和田市内の飲食店や宿泊施設で提供

カルデラ湖が育む幻の魚

「ひめ」の名にふさわしく、姿かたちが美しい魚、ひめます。サーモンピンクの身には上品な旨みがあり、お刺身でいただけば、独特の食感と甘みを楽しむことができる。



05

十和田市
十和田湖ひめます とわだこひめます
☎ 0176-75-2612（十和田湖増殖漁業協同組合）／十和田湖畔の飲食店や宿泊施設で提供

撮影：小山田邦哉
草間彌生《愛はとこしえ十和田でうたう》2010年
©YAYOI KUSAMA



06

現代アートの名作が街のあちらこちらに

十和田市中心市街地を美術館に見立てる「Arts Towada」の中核施設。ロン・ミュエク、草間彌生などの作品が美術館の中だけでなく、街なかにも広がり、歩きながら現代アートに触れられる。

十和田市
十和田市現代美術館 とわだしげんだいびじゅつかん
☎ 0176-20-1127／JR東北新幹線七戸十和田駅よりバスで約35分
※2027年4月1日～2028年3月31日まで休館（アート広場は観覧可能）



Day 02・03
青森市

奈良美智《あおもり犬》2005年
©Yoshitomo Nara

青森ゆかりの芸術と建築を楽しむ

奈良美智の『あおもり犬』をはじめ、棟方志功や成田亨など青森ゆかりの作家を中心に、シャガールのバレエ『アレコ』の背景画など多彩な作品を収蔵・展示。隣接する三内丸山遺跡の発掘現場から着想を得た建築も見どころのひとつ。

青森市
青森県立美術館
あおもりけんりつびじゅつかん
☎ 017-783-3000／JR東北新幹線新青森駅よりバスで約10分

07

八甲田の雪森をスノーシューでおさんぽ

名湯・酸ヶ湯温泉周辺の雪原やブナ林を、ガイドとスノーシューで歩く冬季限定プログラム。深い雪の上を歩きながら、冬の八甲田ならではの自然や動物の痕跡を観察できる。気分はマタギか探検家。

青森市
酸ヶ湯 スノーシューハイキング
すかゆ スノーシューハイキング
☎ 017-752-6705（また旅くらぶ）／JR奥羽本線青森駅よりバスで約70分



08



青森市
酸ヶ湯温泉
すかゆおんせん
☎ 017-738-6400／JR奥羽本線青森駅よりバスで約70分

09



好きな具材を選んで作る、自分だけの海鮮丼

青森魚菜センターで楽しめる名物丼。食事券を購入し、ご飯を受け取ったら市場内の各店を巡り、旬の刺身や惣菜など好みの具材と交換して丼を完成させる。市場ならではの魚介を少量ずつ選べるのが楽しい。

青森市
青森のっけ丼 あおもりのっけどん
☎ 017-763-0085（青森魚菜センター）／JR奥羽本線青森駅より徒歩で約5分

10

総ヒバ造りの巨大浴場「ヒバ千人風呂」

八甲田山中にある温泉宿で、名物は約160畳の広さを誇る総ヒバ造りの大浴場「ヒバ千人風呂」。浴槽ごとに異なる源泉を楽しめ、国民保養温泉地第1号にも指定された歴史ある湯治場として知られる。



11

青森市
立ち呑み屋地酒アスパム
たちのみやじざけアスパム
☎ 017-735-5311／JR奥羽本線青森駅より徒歩で約8分

青森の地酒が勢ぞろい。イメージは酒屋の一角でちょっと一杯

青森県観光物産館アスパム内の地酒のお店。県内各地の蔵元が造る日本酒を中心に、ビール、ワイン、焼酎まで青森ならではのお酒を幅広く取り扱う立ち呑み屋。気に入ったお酒は、アスパム物産のお酒コーナーで購入出来る。



12

雪と風が生み出す巨大な樹氷群

冬の八甲田には、アオモリトドマツに雪と氷が付着して成長した樹氷が出現。「スノーモンスター」とも呼ばれる巨大な造形が山肌を覆う。八甲田ロープウェーから樹氷原を見渡せ、山頂公園駅周辺では間近に観察できる。

青森市
八甲田の樹氷 はっこうだのじゅひょう
☎ 017-738-0343（八甲田ロープウェー）／JR奥羽本線青森駅よりバスで約80分

大型ねぶたの迫力を間近で体感！

青森ねぶた祭の歴史や魅力を体感できるこちらでは、実際に祭で出陣した大型ねぶたを展示。お囃子など祭の文化も紹介し、ハネト体験も可能。冬でも祭の熱気を感じることができる。



13

青森市
ねぶたの家 ワ・ラッセ
ねぶたのいえ ワ・ラッセ
☎ 017-752-1311／JR奥羽本線青森駅より徒歩で約1分

地元の人おすすめの旅プラン

青森県立美術館 スタッフSさん

美術館で感性が刺激されたら、「A-FACTORY」（写真左）などフォトジェニックなスポットがたくさんある青森のベイエリアをより楽しめるはず。「青森公立大学 国際芸術センター青森」（写真右）にも立ち寄れば、アートに浸る1日に。

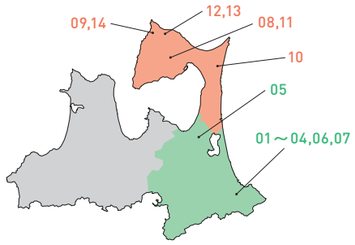




南部・下北、2泊3日の旅
冬ならではの体験を



Day 01
南部エリア



【1日目】JR東北新幹線八戸駅で下車。八戸市内を巡り、東北町で温泉に 【2日目】下北エリアへ。野辺地駅からJR大湊線で下北駅へ、そこから大間町へはバスで移動 【3日目】むつ市周辺を観光

01

種差海岸を一望する岬の展望台

種差海岸の北側に位置する展望台。「みちのく潮風トレイル」の散策拠点にもなっており、太平洋と荒々しい岩礁が連なる海岸線を見渡せる。太平洋戦争末期には旧日本軍が軍事施設として使用していたそう。

八戸市
葦毛崎展望台
あしげざきてんぼうだい
☎ 0178-43-9252（八戸市観光課）／JR八戸線鮫駅よりバスで約10分



03

種差の空気を優雅に味わう宿泊施設

種差天然芝生地のすぐそばにある、宿泊・レストラン・ショップが楽しめる複合施設。宿泊施設はプライベートテラス付きのヴィラタイプで、種差の風を感じながらくつろぎの時間を過ごすことができる。

八戸市
michill TANESASHI
ミチル タネサシ
☎ 0178-70-5256／JR八戸線種差海岸駅より徒歩で約2分



02

八戸市
せんべい汁
せんべいじる
☎ 0178-70-1110（VISIT はちのへ）／八戸市内の飲食店や宿泊施設で提供

南部せんべいを煮込む八戸地方の郷土料理

肉や魚、野菜やきのこなどでとっただしに、汁物専用の南部せんべいを割り入れて煮込む八戸地方の郷土料理。煮てもほどよく歯ごたえが残るせんべいが特徴で、お店や家庭ごとの味が受け継がれている。



04

八戸産ぶどうと冷涼な風土が育む地元ワイン

八戸市の南郷地区を中心に栽培されたぶどうを使い、地域の気候を活かして造られるワイン。2017年に「澤内醸造」がワイン造りをスタートし、2019年には「はちのへワイナリー」も誕生。

八戸市
八戸ワイン はちのへワイン
☎ 0178-38-1811（澤内醸造）撮影協力：ブロンズグリル／八戸市内の飲食店や宿泊施設で提供



05

植物由来の成分を含む黒い天然温泉

日本一の黒い温泉とも言われる黒褐色の湯は源泉かけ流し。なめらかでとろっとした湯質で美肌効果のある美人の湯とも称される。温泉で癒された後は、「黒づくし御膳」を召し上がれ。

東北町
東北温泉 とうほくおんせん
☎ 0175-63-3715／青い森鉄道乙供駅より徒歩で約5分



06

約300店が並ぶ国内最大級の朝市

八戸港の岸壁に、毎週日曜の早朝を中心に約300店が並ぶ国内最大級の朝市。鮮魚や野菜、惣菜、パン、コーヒーなど品ぞろえは多彩で、その場で食べ歩けるメニューも豊富。

八戸市
館鼻岸壁朝市
たてはながんぺきあさいち
☎ 070-2004-6524／JR八戸線陸奥湊駅より徒歩で約20分 ※毎週日曜日開催（12月30日臨時開催、2027年は1月17日～）



07

青森の魚介と食が集まる、どでか市場

全長約170mの市場棟に鮮魚店や乾物店、青果店、飲食店などが並ぶ八戸の食のテーマパーク。購入した魚介などを炭火焼できる「七厘村」も人気。

八戸市
八食センター はっしょくセンター
☎ 0178-28-9311／JR東北新幹線八戸駅よりバスで約10分

一本釣りで知られる大間の本マグロ

津軽海峡の良質な餌と潮流で育つ最高級の天然クロマグロ（本マグロ）として名高い「大間まぐろ」。言わずと知れた青森県の名物。天然物のとろけるような味わいをぜひ現地で。



09

大間町
大間まぐろ
おおまぐろ
☎ 0175-37-2233（大間町観光協会）／大間町内の飲食店や宿泊施設で提供

10



東通村
尻屋崎
しりやざき
☎ 0175-27-2111（東通村商工観光課）／JR大湊線下北駅より車で約40分

寒立馬が暮らす本州最北東端の岬

白亜の尻屋埼灯台と津軽海峡・太平洋を望む岬。寒気と粗食に耐え、持久力に富む農用馬としてかつて重用されていた「寒立馬」が周辺の牧草地で放牧されており、その雄姿を見ることができる。

12



下北の冬を代表するあんこう料理

下北半島で冬に旬を迎えるあんこうを、身や皮、肝など余すところなく味わう鍋料理。淡泊な身と濃厚な肝の旨みがだしに溶け込み絶品。青森県は全国でもトップクラスのあんこうの水揚量を誇る。



Day 02·03
むつ市・大間町

08

むつ市
薬研渓流
やげんけいりゅう
☎ 0175-22-1111（むつ市観光・シティプロモーション課）／JR大湊線下北駅より車で約45分

ヒバの森と清流が続く渓谷散策

ヒバやブナなどの森、そして清流と白い雪のコントラストは冬だけの景色。遊歩道が整備され、1周まわれば約6kmの散策コースに。渓流沿いには奥薬研温泉があり、散策後に温泉へ立ち寄って温まるのもおすすめ。

ホタテの貝殻で仕上げる下北の郷土食

大きなホタテの貝殻を鍋代わりにし、だしと味噌で魚介や豆腐などを煮て卵でとじる下北地方の郷土料理。

むつ市
下北みそ貝焼き
しもきたみそかやき
☎ 0175-22-2282（むつ商工会議所）／下北エリアの飲食店や宿泊施設で提供



11



13

津軽海峡を望む、文豪に愛された名湯

文豪・井上靖が小説『海峡』の終章を執筆した地としても知られる温泉郷。泉質の異なる源泉が3種湧き出ており、お湯比べを源泉かけ流しで楽しめる。海峡の魚介を使ったグルメもあわせて堪能しよう。

風間浦村
下風呂温泉郷 しもふろおんせんきょう
☎ 0175-33-2116（下風呂温泉 海峡の湯）／JR大湊線下北駅よりバスで約70分

風間浦村
あんこう鍋
あんこうなべ
☎ 0175-35-2111（風間浦村役場）／風間浦村内の飲食店や宿泊施設で提供

大間町
大間崎 おおまざき
☎ 0175-37-2111（大間町産業振興課）／JR大湊線下北駅よりバスで約100分

本州最北端、津軽海峡が目の前に

本州最北端の地として知られる大間崎。天候に恵まれれば津軽海峡の向こうに北海道を望める。周辺には「ここ本州最北端の地」の碑やマグロのモニュメント、飲食店や土産店があり、町歩きも楽しむことができる。



14

地元の人おすすめの旅プラン

八戸ブックセンター スタッフOさん

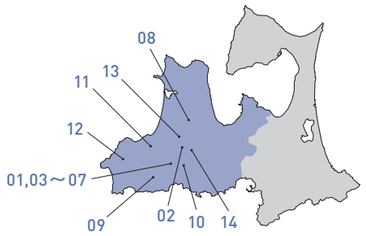
八戸市が運営する書店「八戸ブックセンター」（写真左）で新しい本と出会ったあとは、伝統工芸の体験も行う「八戸ポータルミュージアム」（写真右）へ。2階にある地元のお母さんたちの味にふれつつ、地酒が楽しめるカフェがおすすめです。





弘前市を中心に春の津軽を満喫 2泊3日の旅





【1日目】JR東北新幹線新青森駅で下車。奥羽本線に乗り換えて弘前駅へ。市街を中心に散策 【2日目】五所川原市など津軽半島方面へ、もしくは白神山地という選択も 【3日目】黒石など津軽の東側を巡る

01 弘前城と桜の絶景を楽しむ城跡公園

弘前藩津軽家の居城・弘前城跡を整備した公園。現存12天守のひとつである弘前城天守や櫓、城門などが残る。春のお花見は青森県を代表する風物詩で、毎年多くの観光客が国内外から訪れる。

弘前市 **弘前公園** ひろさきこうえん
☎0172-33-8733（弘前市みどりの協会）／JR奥羽本線弘前駅よりバスで約15分



02 青森りんごを楽しむレトロなスイーツ



りんご「ふじ」発祥の地・藤崎町のグルメと観光の拠点「ふじさき食彩テラス」には、かわいらしいりんごあめが。甘さ控えめの飴を薄くつけることで、りんごの味わいを感じられ、食感もパリパリに。

藤崎町 **りんごあめ**
☎0172-65-3660（ふじさき食彩テラス）／JR奥羽本線北常盤駅より車で5分

03 園内に約80種のりんごが育つ

約9.7haの園内に約80種、2,300本ほどのりんごが植えられた公園。園内の「りんごの家」では品種や栽培の歴史を学べたり、りんごを使ったカレーやスイーツがいただける。春になるとりんごの花が白く咲き乱れる。

弘前市 **弘前市りんご公園** ひろさきしりんごこうえん
☎0172-36-7439／JR奥羽本線弘前駅よりバスで約20分

04 五重塔は江戸時代建立の国重要文化財

1666年に完成した五重塔で、高さ約31m。均整のとれた姿は東北一の美塔と文化財指定説明において称賛されている。1日1組限定の寺泊では、夜間ライトアップされた境内を宿泊者だけで独占できる。



弘前市 **最勝院五重塔** さいしょういんごじゅうのとう
☎0172-34-1123／JR奥羽本線弘前駅よりバスで約15分　※寺泊のお問い合わせは弘前観光コンベンション協会（0172-35-3131）へ

05 弘前ねぷたと津軽文化を体験

高さ約10mの大型ねぷたの展示や、ねぷた内部の骨組みの見学、お囃子の実演も実施。さらに津軽三味線の生演奏、工芸品などを通して津軽の文化を紹介する。金魚ねぷたの絵付けなど体験コンテンツも充実。



弘前市 **津軽藩ねぷた村** つがるはんねぷたむら
☎0172-39-1511／JR奥羽本線弘前駅よりバスで約15分

06 買い物客でいつも賑わう地元の市場でお土産を



弘前駅近くにある市民市場。鮮魚や青果、惣菜、パンからラーメンまで専門店が並び、地元の日常の食に触れられる。購入した惣菜を組み合わせて食べる楽しみもあり、旅の途中の朝食や昼食にも最適。

弘前市 **虹のマート** にじのマート
☎0172-32-6411／JR奥羽本線弘前駅より徒歩で5分

撮影：柴田祥
奈良美智《A to Z Memorial Dog》
© Yoshitomo Nara



07 歴史を感じる名建築で現代アートを鑑賞

常設の奈良美智「A to Z Memorial Dog」が迎えてくれる美術館は、明治・大正期の酒造工場を改修し2020年に開館。国内外の現代アートを紹介する企画展を年2回開催し、併設カフェのアップルパイも名物。

弘前市 **弘前れんが倉庫美術館** ひろさきれんがそうこびじゅつかん
☎0172-32-8950／JR奥羽本線弘前駅よりバスで約10分



08 高さ約23mの立佞武多の迫力に圧倒される

「ヤッテマレ！」の掛け声で知られる五所川原立佞武多で実際に運行する大型の立佞武多を常設展示。館内に制作所があり、可動式のガラス外壁が開いて祭に出陣する。2026年7月にリニューアルオープン。



五所川原市 **立佞武多の館** たちねぷたのやかた
☎0173-38-3232／JR五能線五所川原駅より徒歩で約5分

09 世界自然遺産に広がるブナの原生林

青森・秋田両県にまたがる白神山地は、世界最大級のブナの原生林が残る世界自然遺産。散策路やガイドツアーを通して、ブナ林の生態や多様な動植物について学べる。

西目屋村 **白神山地** しらかみさんち
☎0172-85-2800（西目屋村商工観光係）／JR奥羽本線弘前駅、弘前バスターミナルよりバスで約70分

10 りんご風呂で知られる津軽の温泉宿



平川市にある温泉宿で、りんごを湯船に浮かべる「りんご風呂」が名物。津軽ならではの食材を使った料理と温泉を一度に楽しめ、弘前や黒石観光の拠点にも便利。

平川市 **青森のお宿 ホテルアップルランド** あおもりのおやど ホテルアップルランド
☎0172-44-3711／弘南鉄道弘南線平賀駅より徒歩で約15分

11 天然ヒラメを特製だれで味わう名物丼



鰺ヶ沢町で水揚げされる天然ヒラメを、各店特製のたれに漬けてご飯にのせるご当地丼。ヒラメの上品な旨みと食感を気軽に楽しめる。

鰺ヶ沢町 **ヒラメのヅケ丼** ヒラメのヅケどん
☎0173-82-0923（鰺ヶ沢町企画観光課）／鰺ヶ沢町内の飲食店や宿泊施設で提供

コバルトブルーの青池を歩いて訪ねる

白神山地西部のブナ林に点在する湖沼群「十二湖」の代表的な池。透明度の高い水が鮮やかな青色に見えることで知られる。十二湖散策コースでは、青池や沸壺の池、ブナ自然林などを歩いて巡ることができる。



深浦町 **十二湖／青池** じゅうにこ／あおいけ
☎0173-82-0875（深浦町観光協会）／JR五能線十二湖駅よりバスで約15分

12 岩木山を望む日本一長い木造三連太鼓橋

津軽富士見湖に架かる全長約300mの木造三連太鼓橋。青森県産木材を使用し、3つのアーチが湖面に連なる。橋の向こうに岩木山を望め、絵画のような景色に。2026年3月に改修が完了し、4月から全面開通となった。



鶴田町 **鶴の舞橋** つるのまいはし
☎0173-22-2111（鶴田町役場商工観光課）／JR五能線陸奥鶴田駅より車で約10分

14 雪国の知恵「こみせ」が残る町並み



江戸時代から続く商家の町並みに、木造アーケード状の通路「こみせ」が残る黒石の歴史地区。藩政時代から続く雪国特有のもので、造り酒屋や伝統的な商家が通り沿いに残る。

黒石市 **中町こみせ通り** なかまちこみせどおり
☎0172-52-3488（黒石観光協会）／弘南鉄道弘南線黒石駅より徒歩で約10分

地元の人おすすめの旅プラン

板柳町ふるさとセンター　スタッフKさん

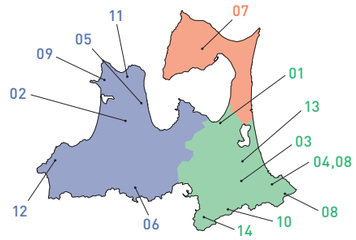
世界各国のりんごを栽培する品種見本園、資料館をはじめ、温泉・宿泊施設も併設。学んで、遊んで、泊まれるりんごの里「板柳町ふるさとセンター」（写真左）。岩木山と桜の風景が美しい「岩木川河川公園」（写真右）とあわせてお楽しみください。





冬の旅、春の旅で
ぜひ食べたい！
青森の食





青森の食と言えば何を思い浮かべますか？ マグロ、ホタテといった海の幸、りんごやニンニクなどの農産物、美味しいお米に、日本酒やワインなどのお酒も豊富。そして各地の個性的な郷土料理も見逃せません。

01

新鮮な活ホタテを産直市場で味わう

北前船寄港地の特産品、野辺地産品を中心に扱う「のへじ活き活き常夜燈市場」。こちらでは野辺地産活ホタテを使った活ホタテ丼が人気。現地ならではの甘みと食感を味わえる。

野辺地町

活ホタテ丼 かつホタテどん

☎0175-73-7887（のへじ活き活き常夜燈市場）／青い森鉄道野辺地駅よりバスで約10分
※水揚げ状況によっては陸奥湾産を提供

02



十三湖産ヤマトシジミの旨みを一杯に

汽水湖・十三湖で採れるヤマトシジミを使用。シジミのだしを活かした透明感のある滋味深いスープが特徴。弾力あるシジミの食感も相まって、ここでしか味わえない個性派ラーメン。

五所川原市

十三湖のしじみラーメン じゅうさんこのしじみラーメン

☎0173-62-2232（市浦商工会）／五所川原市内の飲食店や宿泊施設で提供

03



五戸名物の馬肉を多彩な料理で

馬肉文化が根付く五戸町では、刺身や鍋、焼き物など、赤身の旨みを活かしたさまざまな調理法があり、2026年8月にオープンした五戸町農産物直売施設「バ・オール」のレストランでも馬肉料理がいただける。

五戸町

馬肉料理 ばにくりょうり

☎0178-32-0935（バ・オール）／JR東北新幹線八戸駅より車で約10分
※写真は馬肉のひつまぶし

04



脂のり日本一と称される八戸のサバ

本州最北のサバの漁場八戸前沖。サバの好漁場として知られ、秋から冬にかけて脂がのったサバが水揚げされる。市内飲食店ではしめ鯖や、さば串焼き、さば棒寿司、丼などを提供。

八戸市

八戸前沖サバ はちのへまえおきサバ

☎0178-20-9272（サバのまち八戸協議会／八戸商工会議所内）／八戸市内の飲食店や宿泊施設で提供

05



津軽半島の恵みを受けた完熟トマト

陸奥湾に面する蓬田村は、トマト栽培が盛んな地域。甘み、酸味、うまみのバランスがとれた高品質のトマトを栽培している。蓬田産100%のトマトをじっくり煮詰めたケチャップも村の特産品。

蓬田村

蓬田村のトマト よもぎたむらのトマト

☎0174-31-3040（マルシェよもぎた）／JR津軽線郷沢駅より徒歩で約15分

06



約400年の歴史を持つ津軽の伝統野菜

大鰐温泉の温泉熱と温泉水を利用し、土耕で育てる伝統野菜。長さ約40cmになる細長い姿と、シャキシャキした食感、独特の風味が特徴。伝統的な栽培方法が受け継がれ、冬を中心に町内の飲食店や直売所に並ぶ。

大鰐町

大鰐温泉もやし おおわにおんせんもやし

☎0172-55-6574（大鰐町役場農林課）／大鰐町内の飲食店や宿泊施設で提供

07



津軽海峡の荒波で育てるご当地サーモン

むつ市大畑町で養殖されるサーモン。淡水で育てた幼魚を津軽海峡の生け簀へ移し、潮流の速い海で育てることで締まった身に仕上がる。刺身や寿司、加工品などで味わえる下北のブランド魚。

むつ市

海峡サーモン かいきょうサーモン

☎0175-34-5374（北彩漁業生産組合）／むつ市内の飲食店や宿泊施設で提供

08



ウニとアワビで仕立てる八戸の郷土料理

乳白色の汁に浮かぶウニが朝もやの中の野いちごのように見えることが名前の由来とされる。漁師の浜料理をルーツに持ち、祝いの席でも食べられてきた郷土料理で、飲食店だけでなく、缶詰などでお土産にも人気。

八戸市・階上町

いちご煮 いちごに

☎0178-70-1110（VISITはちのへ）／八戸市・階上町内の飲食店や宿泊施設で提供

09



町の食材をせんべいに挟んで巡る

三戸町の南部せんべいは「三戸せんべい」と呼ばれ、柔らかく、サクッとした食感が特徴。専門店でせんべいを買って、町内の和菓子店や惣菜店で具材を挟んでもらえる「せんべいさんぽ」を通年で実施中。

三戸町

三戸せんべいさんぽ さんのへせんべいさんぽ

☎0179-20-1117（三戸町まちづくり課）／青い森鉄道三戸駅よりバスで約10分（三戸町中心部）

10



高級魚メバルを1尾丸ごと味わう

青森県が漁獲量日本一を誇るウスメバル。その県内漁獲量の半数以上を占める中泊町で誕生したご当地グルメ。メバルを1尾丸ごと使い、刺身や煮付けなどで味わえる。

中泊町

中泊メバル膳 なかどまりメバルぜん

☎0173-64-3800（中泊メバル料理推進協議会／株式会社ヤマカ内）／中泊町内の飲食店や宿泊施設で提供

11



希少なまべつ牛をシンプルにステーキで

年間の供給頭数が少なく、市場にはほとんど出回らない希少な牛肉は、ステーキでその味わいを堪能するのがおすすめ。肉質はやわらかく、しっかりとした肉の旨みが特徴。町内の道の駅「アスクル」でいただける。

今別町

いまべつ牛のステーキ いまべつぎゅうのステーキ

☎0174-31-5200（道の駅いまべつ半島ぷらざ「アスクル」）／JR津軽線津軽二股駅から徒歩で約1分

12



3つの味で楽しむ深浦マグロ

実は県内ナンバー1のマグロ水揚げ量を誇る深浦町。深浦産の天然本マグロを自分で焼きながら味わうご当地丼がこちら。刺身、片面焼き、両面焼きと火入れを変え、3種類のたれで楽しむのが特徴。

深浦町

深浦マグロステーキ丼 ふかうらマグロステーキどん

☎0173-74-2111（深浦マグロ料理推進協議会）／深浦町内の飲食店や宿泊施設で提供

13



煮ても焼いても絶品な青森の地鶏

厳格な飼育マニュアルをもとに、時間をかけてじっくり育てた肉質は上質。肉のきめが細かく濃厚な味わい、そして風味豊かなダシが出るため、親子丼に水炊き、焼き鳥にとどんな料理でも好相性。

六戸町

青森シャモロック あおもりシャモロック

☎0176-55-2411（六戸町まちづくり推進課）／六戸町内の飲食店や宿泊施設で提供

14



田子町のブランドにんにくをフル活用！

田子町のにんにくは寒暖差により、非常に高い糖度を持つ、県内きっての名産品。“ガリステごはん”は田子町が誇る3大食材、にんにく・肉・米を使ったにんにくのフルコースランチ。町内の飲食店でいただける。

田子町

田子町のガリステごはん たっこまちのガリステごはん

☎0179-20-7114（田子ニンニク料理推進協議会／田子町役場商工振興課内）／田子町内の飲食店2カ所で提供

「青森冬のごちそう旅」開催中！

県内の宿泊施設が月ごとのテーマ食材を使用したメニューを提供する、特別な宿泊プランを企画。青森ならではの味覚を存分に味わう旅をおとどけします。
宿泊対象期間：12月1日～2027年3月31日

詳細はこちら！

12月～3月のテーマ食材はこちら！

12月 県産ヒラメ
冷たい海で育ち身が引き締まった青森のヒラメは最高品質！ 漁獲量も全国トップクラス。



1月 県産牛
日本一に輝いた倉石牛をはじめ、県外では味わえないブランド牛が青森県には多数！



2月 県産マグロ
「マグロと言えば」の大間町だけでなく、深浦町のマグロ、外ヶ浜町の三厩マグロも絶品。

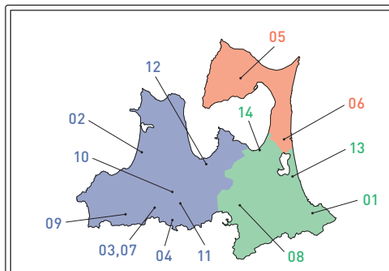


3月 県産トゲクリガニ
本格的な漁は陸奥湾だけ。甘み、うまみがぎゅっと詰まっており、蟹みそも濃厚。



青森の夜は明るく楽しい。
美酒と夜景に浸る





旅の楽しみと言えば、夜の街に繰り出すこと。魅力的な酒場が多い青森県の夜は美味しいお酒が欠かせません。また冬だけしか見ることができない、雪景色に映えるライトアップ、イルミネーションも楽しみ。

8つの横丁が残る八戸中心街をはしご酒

八戸中心街には、細い路地に小さな店が連なる8つの横丁が残る。戦後から続く横丁もあり、郷土料理や地酒、家庭的な一品料理など店ごとの個性を楽しめる。横丁から横丁へ、はしごしながら八戸の夜を楽しもう。

八戸市　**八戸横丁文化**　はちのへよこちょうぶんか
☎0178-72-3311（八戸横丁連合協議会）／JR八戸線本八戸駅より徒歩で約10分

弘前の酒好きたちが集う角打ちスポット

弘前大学の文京キャンパスのすぐそば。青森県内全ての醸造所のシードルを取り揃え、地酒も充実。お土産選びはもちろん、角打ちスペースで飲み比べも楽しめる。

弘前市　**弘前銘醸ハチドリ酒店**　ひろさきめいじょうハチドリさけてん
☎0172-39-2525／JR奥羽本線弘前駅より徒歩で約15分





つがる市　**津軽醸造**　つがるじょうぞう
Instagram：@tsugarubrewing／JR五能線五所川原駅よりバスで約30分

津軽の風土を活かしたビール造り

国内外の実力派ブルワリーでビール造りの経験を持つクリス氏が、国際交流員としてかつて働いていた地域で創業。津軽地域の米や小麦などを活かし、地域に根差したビール造りを行う。できたてのビールが飲めるタップルームは月に1回ほどオープン。



温泉街の夜をスナックで楽しむ

町内のスナックを巡って地元の人との交流を楽しむのが大鰐温泉のおすすめの過ごし方。店ごとの1杯やカラオケ、名物マスター・ママなど、昔ながらの温泉街に根付く夜の文化を体験できる。

大鰐町　**大鰐町スナック巡り**　おおわにまちスナックめぐり
☎0172-48-2335（大鰐町商工会内大鰐温泉商店会）／JR奥羽本線大鰐温泉駅より徒歩で約5分





むつの夜に立ち寄りたい小さな横丁

地元の人々に親しまれる飲食店が並ぶ田名部神社近くの横丁。小さな店が集まり、地元の人との気さくな会話とともに青森のお酒や料理を楽しめる。

むつ市　**神社横丁**　じんじゃよこちょう
☎0175-22-1111（むつ市観光・シティプロモーション課）／JR大湊線下北駅よりバスで約10分

長芋から生まれた六ヶ所村の本格焼酎

六ヶ所村特産の長芋を原料に造る本格焼酎「六趣」の蒸留所。長芋の風味を生かしたすっきりした味わいの焼酎を製造し、地域を代表する土産としても親しまれる。

六ヶ所村　**六趣醸造工房**　ろくしゅじょうぞうこうぼう
☎0175-71-3335／青い森鉄道野辺地駅よりバスで約50分

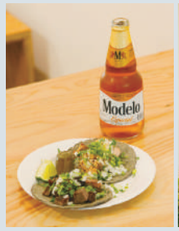


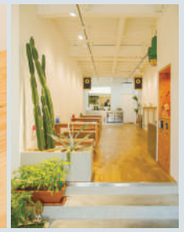
帰る前に！ 青森であと1軒！





はなうた
青森駅から徒歩約3分のワインバー。店主自ら足を運び仕入れるワイン、日本酒、ビールが揃い、県内食材を使ったおつまみも。
Instagram：@hanauta_aomori





CASAMASA
青森駅から約7分のタコスショップ。トウモロコシ粉を使った本格的なタコスがいただける。豚肉をじっくり煮込んだカルニタスは絶品。
Instagram：@_____casamasa_____



雪燈籠と弘前城が彩る冬の祭り

弘前公園を会場に開催される冬の恒例行事。市民手作りの雪燈籠や雪像、ミニかまくらが園内に並び、弘前公園の冬景色を彩る。

弘前市　**弘前城雪燈籠まつり**　ひろさきじょうゆきどうろうまつり
☎0172-37-5501（弘前市立観光館）／JR奥羽本線弘前駅よりバスで約15分　2027年2月10日～2月14日



雪原に描く巨大なスノーアート

田舎館村の冬の田んぼをキャンバスに、巨大な模様を描くスノーアート。展望所から全体を見下ろせば、緻密な図柄を楽しめる。夏の「田んぼアート」とは異なる、雪国ならではの期間限定企画。

田舎館村　**冬の田んぼアート**　ふゆのたんぼアート
☎0172-58-2111（田舎館村企画観光課）／弘南鉄道弘南線田んぼアート駅より徒歩で約1分
2027年1月22日～1月24日

台湾提灯の鮮やかな光が彩る平川の冬

平川市中心部をイルミネーションで彩る冬のイベント。友好交流都市・台湾台中市から贈られた色鮮やかな台湾提灯とLED装飾が並ぶ。

平川市　**ひらかわイルミネーションプロムナード**
☎0172-55-5732（平川市経済部商工観光課）／弘南鉄道弘南線平賀駅より徒歩すぐ
11月20日～2027年2月14日



ランタンの灯りが野辺地駅前を彩る

駅前や商店街に雪のランタンの灯りが並び、やさしい光で満ちた野辺地の町歩きを楽しめる。この雪ランタンは参加自由で、地域の人々が作ったもの。

野辺地町　**のへじ停車場ランタン祭り**　のへじていしゃばランタンまつり
☎0175-64-9555（野辺地町観光協会）／青い森鉄道野辺地駅より徒歩すぐ　2027年2月6日



現代アートの作品たちが青い光で浮かび上がる

十和田市現代美術館前のアート広場が無数の光で埋め尽くされる。まるで光の絨毯のような広場に、屋外作品が青い光で浮かび上がり、現代アートと冬の夜景を一緒に楽しめる。

十和田市　**アーツ・トワダ ウインターイルミネーション**
☎0176-51-6771（十和田市観光課）／JR東北新幹線七戸十和田駅よりバスで約35分　12月18日～2027年2月21日



凍結した大滝を照らす冬のライトアップ

西目屋村の乳穂ヶ滝は、高さ約33mの滝が厳冬期に凍結することで知られる。冬には凍った滝をライトアップする催しが行われ、氷柱の形や凍結の状態を間近で見学できる。

西目屋村　**乳穂ヶ滝ライトアップ**　におがたきライトアップ
☎0172-85-2800（西目屋村役場）／JR奥羽本線弘前駅よりバスで約60分
2027年2月1日～14日



光と音と食と文化を楽しむ冬イベント

青森ベイエリアを中心に繰り広げられる青森の冬の名物イベント。ねぶた技法の和紙オブジェ展示や「青森夜市」、ディスコイベント「ナイトミュージック&ミュージアム」など、会期を通して様々なコンテンツを楽しむことができる。

青森市　**あおもり冬のワンダーランド**　あおもりふゆのワンダーランド
☎017-723-7211（青森観光コンベンション協会）／JR奥羽本線青森駅より徒歩で約10分　12月11日～2027年3月15日



巨大ツリーが照らす幻想的な三沢の冬

三沢市中心部のなかよし公園で開催される冬のイルミネーション。高さ約16mの巨大ツリーをシンボルに、約10万球のLEDが園内を彩る。近隣のアメリカ広場や三沢基地正面ゲート前にも光の装飾が施される。

三沢市　**ミサワパンタシア**
☎0176-53-2175（三沢市商工会）／青い森鉄道三沢駅より徒歩で約15分　11月中旬～2027年1月下旬

弘前公園 TOPICS

弘前では春も、冬も!? 桜のライトアップ

全国屈指の桜の名所「弘前公園」。春の桜のライトアップ（写真左）は、昼とはまた違った美しさ。そして実は冬にも桜のライトアップ（写真右）が。桜の枝に積もった雪をピンク色の照明で照らし、冬に桜が咲いたような景観をつくる。





この冬・春に訪れたい季節の見どころ

この冬だけ、この春だけ、いまの青森でしか体験できないことをこちらでご紹介。旅のコースに取り入れて、季節ごとの魅力や文化を楽しもう



01 石炭ストーブで暖まる津軽のレトロ列車

津軽鉄道で冬季に運行する名物列車。車内に石炭だるまストーブを備え、温まりながら雪景色の津軽平野を走る。車内販売のスルメをストーブで炙るのも定番。

五所川原市 **津軽鉄道・ストーブ列車**
つがるてつどう・ストーブれっしゃ
☎0173-34-2148（津軽鉄道）／津軽鉄道津軽五所川原駅より発着12月1日～2027年3月31日



02 目の前が真っ白になる猛吹雪を体感！

地面に積もった雪が強風で舞い上がる「地吹雪」は津軽平野の冬の風物詩。防寒具を身に着け、ガイドとともに雪原を歩きながら、体験できるプログラム。

五所川原市 **地吹雪体験**
じふぶきたいけん
☎080-3195-4036（津軽地吹雪会）／津軽鉄道芦野公園駅より徒歩で約3分　2027年1月中旬～2月中旬



04 クリスマスをアスパムで楽しもう

青森県のランドマーク、観光物産館アスパム周辺で開催される冬のイベント。クリスマスツリーやイルミネーションが会場を彩り、飲食ブースなどが並び、ハイライトに花火も打ちあがる。

青森市 **アスパム クリスマスマーケット**
☎017-735-5311／JR奥羽本線青森駅より徒歩で8分
12月11日～25日

冬の浅虫温泉でねぶたを体感

ねぶたの展示や運行、お囃子などを夏の熱気をそのままに、雪のレトロな温泉街で披露。夏だけではない青森ねぶたの魅力に触れられる。

青森市 **浅虫ねぶた冬の陣**
あさむしねぶたふゆのじん
☎017-718-1267（MOSPAあさむし共創プラットフォーム）／青い森鉄道浅虫温泉駅より徒歩で約5分　2027年1月22日～2月21日



03



05 十和田湖の水辺で楽しむ雪と光の冬イベント

十和田湖畔休屋を会場に行われ、雪景色の中でライトアップや冬花火、名物グルメなどを楽しめる。

十和田市 **十和田湖冬物語**
とわだこふゆものがたり
☎0176-75-1531（十和田湖冬物語実行委員会事務局）／JR東北新幹線八戸駅よりバスで約140分　2027年2月6日～14日

八戸市の伝統の冬まつり。力強く華やかな舞に注目

八戸地方に春を呼ぶ豊年祈願の郷土芸能。太夫が馬の頭をかたどった烏帽子をかぶり、田植えの動作を表現する「摺り」が見どころ。国の重要無形民俗文化財に指定されている。

八戸市 **八戸えんぶり**　はちのへえんぶり
☎0178-70-1110（VISITはちのへ）／JR八戸線本八戸駅より徒歩で約10分　2027年2月17日～20日



08

雪積もる海岸に白鳥が映える

10月中旬から3月下旬にかけて、シベリア方面から約700～800羽もの白鳥が訪れる。国の特別天然記念物に指定されている白鳥の渡来地。

平内町 **浅所海岸**　あさどころかいがん
☎017-755-2118（平内町役場水産商工観光課）／青い森鉄道小湊駅よりバスで約4分



06



07 おいらせで代々受け継がれる春を呼ぶ舞

豊作を祈願する南部エリアの民俗芸能「えんぶり」を、おいらせ町百石地区で開催。会場となる八幡宮（上明堂）、本町地区では、躍動感あふれる演舞が繰り広げられる。

おいらせ町 **百石えんぶり**　ももいしえんぶり
☎0178-20-0405（阿光坊古墳館）／青い森鉄道下田駅よりバスで約15分
2027年2月15日～17日



09 一面の菜の花畑を楽しむ横浜町の春祭り

菜の花の作付面積が日本でトップクラスの横浜町。一番の見ごろの時期に、菜の花大迷路、特設ステージでのショーなどが楽しめる春の恒例イベントを開催。目の前に一面に広がる黄色い菜の花は圧巻！

横浜町 **菜の花フェスティバル in よこはま**
なのはなフェスティバル イン よこはま
☎0175-78-2111（横浜町役場）／JR大湊線陸奥横浜駅より車で約10分　2027年5月中旬



11 りんご型ねぷたが彩る春のローカル線

弘南鉄道大鰐線の車内をりんご型のねぷたなどで装飾する春の企画列車。津軽平野の景色を車窓から眺めながら、りんごの産地らしい装飾とローカル線の旅を一緒に楽しめる。

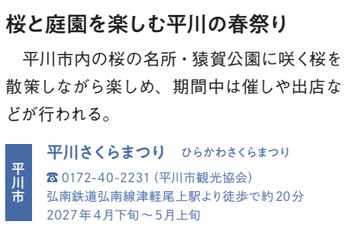
弘前市 **春のりんごねぷた列車**　はるのりんごねぷたれっしゃ
☎0172-44-3136（弘南鉄道）／中央弘前駅～大鰐駅間を運行
例年3月中旬頃～5月中旬頃運行（詳細日程は未定）



13 色とりどりのチューリップに感動

五戸町にあるチューリップ園。春になると多彩な品種のチューリップが一斉に咲き、色や形の違いを見比べながら園内を散策できる。開園時期は花の生育状況によって変わるため、訪問前の確認がおすすめ。

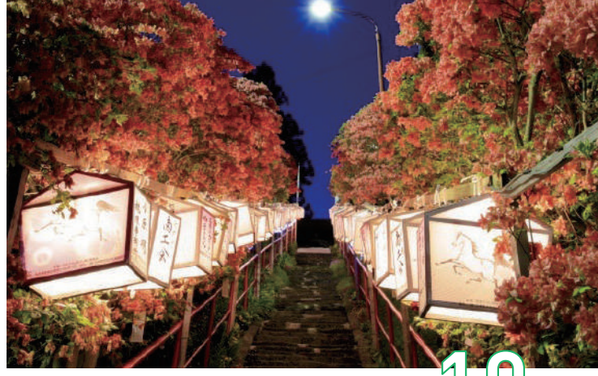
五戸町 **正子のチューリップ園**
しょうこのチューリップえん
☎0178-62-7155／JR東北新幹線八戸駅より車で約20分　見ごろは4月下旬から5月中旬



15 桜と庭園を楽しむ平川の春祭り

平川市内の桜の名所・猿賀公園に咲く桜を散策しながら楽しめ、期間中は催しや出店などが行われる。

平川市 **平川さくらまつり**　ひらかわさくらまつり
☎0172-40-2231（平川市観光協会）
弘南鉄道弘南線津軽尾上駅より徒歩で約20分
2027年4月下旬～5月上旬



10 約500本のつつじが丘を彩る春祭り

七戸町の天王神社周辺で開催され、境内や天王つつじ園に約500本のつつじが咲き、赤やピンク、白の花が斜面を彩る。境内を彩るつつじが見どころで、夜にはライトアップなども行われる予定。

七戸町 **天王つつじまつり**
てんのうつつじまつり
☎0176-62-2137（七戸町商工観光課）／JR東北新幹線七戸十和田駅より車で約10分
2027年4月下旬～5月中旬頃



12 漁村で受け継がれる県無形民俗文化財

佐井村福浦地区で130年以上受け継がれてきた伝統芸能。地元の漁師が役者や裏方を務め、歌舞伎の演目を上演する。青森県の無形民俗文化財に指定され、下北半島の小さな漁村に根付く独自の芸能文化を今に伝える。

佐井村 **福浦の歌舞伎**　ふくうらのかぶき
☎0175-33-0014（一般社団法人くるくる佐井村）／JR大湊線下北駅より車で約90分
2027年4月に上演予定



14 桜の下を駆ける女性騎手の流鏑馬競技

十和田市中央公園で春に開催される女性騎手による流鏑馬大会。桜並木の下を馬で駆けながら次々と的を射ていくスピードと迫力は圧巻。

十和田市 **桜流鏑馬**
さくらやぶさめ
☎0176-26-2945（十和田流鏑馬観光連盟）／JR東北新幹線七戸十和田駅よりバスで約35分
2027年4月17、18日

青森の桜を見に行こう



弘前さくらまつり
青森の春を代表する祭りで、会場の弘前公園内には食べ物からお化け屋敷まで数々の出店が並ぶ。
☎0172-37-5501（弘前市立観光館）／2027年4月16日～5月5日



金木桜まつり
芦野公園で開催され、園内には約1,500本の桜が咲き、桜のトンネルの中を津軽鉄道が走り抜ける。
☎0173-35-2111（五所川原市商工観光課）／2027年4月中旬～下旬



十和田市春まつり
日本の道100選に選ばれた官庁街通り周辺を会場に、稲生川ウォークやステージイベントなども開催。
☎0176-24-3006（十和田奥入瀬観光機構）／2027年4月20日～5月5日（予定）



むつ桜まつり
早掛沼公園と水源池公園を中心に開催。早掛沼公園には約400本の桜が咲き乱れる。
☎0175-22-1111（むつ市観光・シティプロモーション課）／2027年4月下旬～5月上旬

絶景を満喫！

JOYFUL TRAIN

リゾート列車で旅する東北

八戸線　TOHOKU EMOTION

列車全体がレストラン空間の東北レストラン鉄道

TOHOKU EMOTIONは、車窓に広がる三陸の海を眺めながらゆっくりとお食事を楽しんでいただける「東北レストラン鉄道」です。東北の食材を使ったオリジナルメニューや、東北各地の伝統工芸をモチーフとしたインテリアなど、味覚だけでなく視覚も刺激してくれます。受け継がれてきた美食と絶景を、心ゆくまでご堪能ください。

■ Lunch Course ／ 往路区間（八戸駅⇒久慈駅）



■ Dessert & Afternoon Tea ／ 復路区間（久慈駅⇒八戸駅）





※期間中の金・土・日・祝日を中心に運行
※ご予約はJR東日本「のってたのしい列車ポータル」予約ページをご覧ください
※料理の写真は2026年10月～12月の一例です。季節毎に変更を予定しております。

五能線　リゾートしらかみ



※列車の運行状況や車内イベントなど詳しい情報はJR東日本「のってたのしい列車ポータル」サイトをご覧ください

白神山地の山々と日本海が車窓に広がる

世界自然遺産の白神山地の麓、風光明媚な日本海沿いの五能線を走る「リゾートしらかみ」。「青池」「橅」「くまげら」の3編成が運行されており、開放感ある車内から雄大な白神山地や、夕陽が沈む日本海など美しい風景をのぞめます。「橅」編成の内装にはシンボルツリーの橅をはじめ、天然秋田スギ、青森ヒバなど沿線の木材をふんだんに使っており、大自然を感じながらの旅を楽しめます。

リゾートしらかみの車内では、展望室（先頭車両）またはイベントスペースにて車内イベントが行われます。
※諸事情により演奏・実演できない日もございますので、あらかじめご了承ください



車内イベントの一例（津軽三味線生演奏）

大湊線　ひなび下北

日常を離れ 地域とつながる ゆったり鉄道の旅

のどかな風景の中を走る観光列車「ひなび下北」。グリーン車も備え、広がる車窓とともに、落ち着いた旅の時間を演出します。



おトクに巡れるフリーパスをチェック！

津軽エリアのJR線・弘南鉄道・津軽鉄道・弘南バスの一部路線が乗り放題の「津軽フリーパス」をはじめ、東北地方のおトクなきっぷ情報は右の二次元コードから！

東北のおトクなきっぷ

JR東日本「のってたのしい列車ポータル」サイト

TOHOKU EMOTION、リゾートしらかみ、ひなび下北の運転日、時刻など詳しい情報はこちらから

のってたのしい列車

お土産にお買いもの、グルメが楽しめる　駅からすぐ！なスポットをご紹介！



青森駅　A-FACTORY

青森の地元食材を使ったスイーツやりんごのお酒シードルが楽しめる複合施設。館内からベイエリアを眺めて食事を満喫できる。

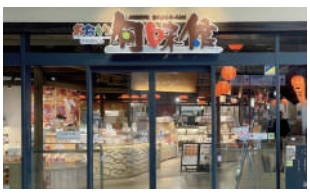
【営業時間】10:00～19:00
【住所】青森県青森市柳川1-4-2
【電話番号】017-752-1890



青森駅　ラビナ・＆LOVINA

デザイン性の高い工芸品や、パッケージが素敵なお酒など、気の利いたお土産も揃う青森駅の駅ビル。飲食店もバラエティ豊か。

【営業時間】10:00～20:00
【住所】青森県青森市柳川1-2-3
【電話番号】017-734-1211



新青森駅　あおもり旬味館

東北新幹線新青森駅の駅ナカ施設。出発前の腹ごしらえにちょうど良い飲食店はもちろん、車内で食べたいお弁当、お土産はこちらで。

【営業時間】9:00～19:00
【住所】青森県青森市石江高間140-2
【電話番号】017-752-6557



弘前駅　アプリーズ

弘前駅の駅ビルで、ファッションアイテムだけでなく、弘前をはじめとする青森特産品のお土産も充実。お酒の品揃えもなかなか。

【営業時間】10:00～20:00
【住所】青森県弘前市表町2-11
【電話番号】0172-36-2231

一部営業時間の異なる店舗がございます。

※写真はイメージです。※掲載の内容は、2026年10月現在の情報です。